

DIALOG(R) File 351:Derwent WPI
(c) 2003 Thomson Derwent. All rts. reserv.

007957887

WPI Acc No: 1989-222999/ 198931

XRAM Acc No: C89-098909

XRPX Acc No: N89-170053

Positively charged toner mfr. - by suspension polymerising liq. phase contg. vinyl monomer, nigrosine dye and carbon black, in dispersion, to form toner particle

Patent Assignee: MITSUBISHI KASEI CORP (MITU)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 002

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 1145664	A	19890607	JP 87304980	A	19871202	198931 B
JP 2666307	B2	19971022	JP 87304980	A	19871202	199747

Priority Applications (No Type Date): JP 87304980 A 19871202

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan Pg	Main IPC	Filing Notes
-----------	------	--------	----------	--------------

JP 1145664	A	5		
------------	---	---	--	--

JP 2666307	B2	4	G03G-009/087	Previous Publ. patent JP 1145664
------------	----	---	--------------	----------------------------------

Abstract (Basic): JP 1145664 A

Method comprises a liq. phase (contg. A, B, C) is suspension polymerised, in a dispersion using a suspension stabiliser, to form a toner particle. (A) is vinyl monomer; (B) is nigrosin dye modified with fatty acid of 10-20C; and (C) is carbon black with specific surface area 100-200 sq.m per g, oil absorption 90-150 ml/100 g.

Vinyl monomer is styrene, vinyl toluene, etc. (B) Deg. of polymerisation is 10-50 wt. fatty acid in total wt. Example is 39 wt.% by stearic acid, 30 wt.% by oleic acid. Amt. is 1-5 wt.% per vinyl monomer. (C) Example is 'MA 600, Mitsubishi Carbon Black' by Mitsubishi Chem. Amt. is 3-10 wt.% per vinyl monomer. Polymerisation initiator is benzoyl peroxide, 2,2'-AIBN, etc.

ADVANTAGE - Method is simple and gives a fine-particle polymer with good toner properties and geometry of the prod.

This Page Blank (uspto)

⑥公開特許公報(A) 平1-145664

⑦Int.Cl.
G 03 G 9/08識別記号
3 8 4厅内整理番号
7265-2H

⑧公開 平成1年(1989)6月7日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全5頁)

⑨発明の名称 正帯電性トナーの製造方法

⑩特 願 昭62-304980

⑪出 願 昭62(1987)12月2日

⑫発明者 油 科 平 八 神奈川県横浜市緑区鶴志田町1000番地 三菱化成工業株式会社総合研究所内

⑬発明者 佐 藤 幸 弘 神奈川県横浜市緑区鶴志田町1000番地 三菱化成工業株式会社総合研究所内

⑭発明者 柳 堀 昭 彦 神奈川県横浜市緑区鶴志田町1000番地 三菱化成工業株式会社総合研究所内

⑮出願人 三菱化成株式会社 東京都千代田区丸の内2丁目5番2号

⑯代理人 弁理士 長谷川 一 外1名

明細書

(従来の技術)

1 発明の名称
正帯電性トナーの製造方法

2 特許請求の範囲

- (1) A) ピニル系单量体、
B) 炭素数10～20の脂肪酸で変性されたニグロシン染料

および

C) 比表面積が100～200m²/gである、かつ吸油量が90～150ml/100g
であるカーボンブラック

を含有する油相を、懸濁安定剤により水相中に分散せしめた状態で、懸濁重合してトナー粒子を形成させることを特徴とする正帯電性トナーの製造方法。

3 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、懸濁重合法による正帯電性トナーの製造方法に関するものである。

従来より電子写真感光体などの画像保持面上に形成される静電荷像を可視化するために、乾式の着色微粒子、いわゆるトナーが用いられてきている。

トナー粒子の製造方法としては、熱可塑性樹脂に帶電剤補剤やカーボンブラックなどの着色剤を加えて混練・分散し、冷却固化の後、微粉砕し、所定の粒径のものを得るために分级する方法が一般的である。

この製造方法は、かなり優れたトナーを製造し得るが、以下のような問題点も有している。

- (1) 主成分である樹脂の特性によっては、混練や微粉砕工程でのエネルギー消費が増大したり、過粉砕に起因する分级工程での歩留りの悪化が生ずるため製造コストが高くなる。
(2) 得られる粒子の形状が不定形であり、各粒子が異なる形状を持つため、流动性が悪く、また個々の摩擦帶電特性にバラツキを

生じ易い。

このような従来法による問題点を回避するため、懸濁重合法によって最初からトナー粒子を製造する方法が提案されている（たとえば特公昭36-10231号公報参照）。この方法は着色剤などの添加剤と重合開始剤とを重合性単量体中に分散して油相とした後、懸濁安定剤を含有する水相中で懸濁重合させることによってトナー粒子を得るものである。懸濁時に適当なせん断力を加えるだけで、トナーとして好ましい大きさの微粒子が容易に得られるので製造工程が簡素化できる上、エネルギーの消費も少なく、コスト面で有利となる。また、粒子の形状が球状で一定となるため、流动性や個々の摩擦帶電性などのトナー性能も改善されるという利点もある。

〔発明が解決しようとする問題点〕

懸濁重合法においては、単量体中へ着色剤などの添加剤を均一に分散させることが最も重要な点である。この分散が不充分のまま重合する

と、得られるトナーは個々の粒子の表面や内部にこれらの添加剤が偏在したものとなるため、摩擦帶電性や転写性などのトナーとして必要な性能を損なう場合がある。

しかし、通常トナー用の着色剤として多用されるカーボンブラックは、凝聚性の強い微粉体であるため、単量体中へ均一分散すること自体が困難であるばかりでなく、分散後の経時的な安定性も悪い。従って、重合によって得られる粒子もカーボンブラックが偏在しやすく、はなはだしい場合は、着色剤を含まない透明粒子が混在するなどの重大な欠陥が生じることもある。

このため、これらの問題点を改良すべく種々の分散手段あるいは分散方法について検討がなされているが、今のところ必ずしも満足すべき結果は得られていない。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明の目的は、特定のニクロシン染料およびカーボンブラックを単量体に分散させることによって、懸濁重合法の上記問題点を改善し、

添加剤、特にカーボンブラックの偏りのない微粒状重合体、詳しくは正帯電性の乾式トナーを簡単に製造する方法を提供することである。

すなわち、本発明の要旨は、

- A) ピニル系単量体
- B) 炭素数10～20の脂肪酸で変性されたニクロシン染料
- および
- C) 比表面積が100～200m²/gであり、かつ吸油量が90～150ml/100gであるカーボンブラック

を含有する油相を懸濁安定剤により水相中に分散せしめた状態で、懸濁重合してトナー粒子を形成させることを特徴とする正帯電性トナーの製造方法に存する。

以下、本発明を詳細に説明する。

ピニル系単量体は、通常のトナーの製造に用いられる、付加重合により重合体を与える公知のピニル化合物は全て含まれるが、例えはステレン、ローメタルステレン、ピニルトルエン等

の芳香族ピニル化合物；メチルメタクリレート、ブチルアクリレート、ブチルメタクリレート等のα-不飽和カルボン酸エステル；メタクリロニトリル、アクリロニトリル等のα,β-不飽和ニトリル化合物；塩化ビニル、臭化ビニル等のハロゲン化ビニルなどが挙げられる。これらのピニル系単量体は単独もしくは2種以上混合して用いられる。また、ジビニルベンゼン等の架橋性ピニル化合物も前記ピニル系単量体に対して0.01～10wt%の範囲で用いることができる。

本発明で使用する変性ニクロシン染料は、炭素数10～20の脂肪酸で過塩素酸処理されたものである。脂肪酸としては、例えはステアリン酸($C_{17}H_{34}COOH$)やオレイン酸($C_{17}H_{32}COOH$)などが挙げられ、炭素数が10～20の範囲内であれば飽和又は不飽和脂肪酸のいずれであってもよく、2種以上の脂肪酸の混合物を用いてよい。ニクロシン染料はこれらの脂肪酸には容易に溶けるが、その変性量としては、全重量

中に占める脂肪酸の割合を10～30wt%とするのが好ましい。これらの変性ニクロシン染料は、市販されているものを使用することができ、具体例は、例えばステアリン酸変性のものとしては、ポントロンNO.2(ステアリン酸変性量約3wt%)、BS45(約31wt%)、ポントロンN11(約23wt%)、BS10(約2wt%)などが挙げられ、オレイン酸変性としては、ポントロンNO.1(オレイン酸変性量約30wt%)〔以上、いずれもオリエント化学工業㈱製、商品名〕などが挙げられる。なお、これらの変性ニクロシン染料はビニル系单量体に対して1～5wt%の範囲で添加して使用することが好ましい。

本発明で使用するカーボンブラックは前記したように比表面積が100～1000m²/gでかつ吸油量が90～150ml/100gであることを必要とする。本発明において比表面積は窒素吸着法(BET法)により測定したものであり、吸油量はJIS K6221-1982に示される方

例えはポリビニルアルコール、ポリビニルビロドン等の水溶性高分子物質；硫酸カルシウム、硫酸カルシウム、シリカ等の水に難溶性の無機質粉体等が挙げられる。これらは、水相に対して10wt%以下で用いることが好ましい。

本発明のトナーを製造するための懸濁重合法は特に限定されるものではないが、その一例を挙げると以下の通りである。

まず、ビニル系单量体と、前記したニクロシン染料及びカーボンブラックをホモミキサー、ホモジナイザーあるいはサンドミル等により適宜分散させた後、通常重合開始剤を加えて重合性組成物(油相)の分散液を調製する。

次いで水および懸濁安定剤から成る水相に、上記の油相の分散液を加え前述のホモミキサー、ホモジナイザーなどを用いる分散手段により、3～30μmの油滴に分散する。

油相と水相の好ましい比は1:1～1:10の範囲であり、重合中に粒子の凝集が起らないよう設定される。油相を水相中に均一に分散し

たによりカーボンブラックに対するDBPの吸収量を求めた。これらの条件を満たすカーボンブラックの具体例としては、三菱カーボンブラック(登録商標)MA600、MA100、#40(以上、いずれも三菱化成工業㈱製)などが挙げられる。カーボンブラックの使用量はビニル系单量体に対して3～10wt%の範囲が好ましい。

本発明の特徴は、以上のように特定の変性処理を施されたニクロシン染料と特定の物理値を有するカーボンブラックを併用することにある。单量体中へのこれらの分散が極めて容易かつ均一になるばかりでなく、分散後の経時安定性も良好となる。従って、それらを含む油相を、懸濁安定剤により水相中に分散させ、懸濁重合すれば容易に本発明の正荷電性トナーを得ることができる。

用いる懸濁安定剤はビニル系单量体、ニクロシン染料及びカーボンブラックを含む油相が水相中の懸濁状態を保持し得るもののが使用される。

た分散液を搅拌装置、コンデンサー、温度計及び空気導入管を付した重合缶に移し、重合開始剤の分解放する温度(40～100°C)に昇温し、窒素気流下で重合を行なわせる。重合完了後、遠心分離は離別により水相を除き、水・アルコールなどを用いた洗浄の後、噴霧乾燥、真空乾燥などの手段で水分を除き目的とするトナーが得られる。

なお、上記油相を形成する重合性組成物中には重合開始剤の他に、トナーの製造に用いられるオフネット防止剤その他の添加剤を使用することができる。

重合開始剤は、ビニル系单量体のラジカル重合に慣用される有機溶媒可溶性の重合開始剤から選定される。例えはベンゾイルパーオキサイド、ラクロイルパーオキサイド等の過酸化物；2,2'-アゾビスイソブチロニトリル、2,2'-アゾビス(2,4-ジメチルパジロニトリル)等のアゾ化合物などが用いられる。これらは、ビニル系单量体に対して30wt%以下が好ましく、更

には0.1～1.0wt%の範囲で最適であることが好ましい。用いる重合開始剤の種類によっては、該重合開始剤を溶解させることを目的として、重合反応に対して不活性な有機溶媒を油相へ適量使用してもよい。

オフセット防止剤は、熱ロール定着器に対するトナーの離型性を向上させるものであり、従来より公知のものが使用され、例えば低分子量ポリエチレン、ポリプロピレン等のポリオレフィンが例として挙げられる。オフセット防止剤は、通常ビニル系单量体に対して1.0wt%以下用いることが好ましい。

また、重合体の分子量を所定の範囲に抑えるためにドデシルメルカプタンなどの連鎖移動剤を用いてもよい。

(実施例)

以下、実施例により本発明を更に詳細に説明する。なお、実施例中「部」は「重量部」を示す。

ス製重合缶に移し、回転数約500 rpmで攪拌しながら、窒素気流下80°Cで8時間加熱し、重合を完了した。

この得られた重合液から遠心分離機により重合粒子を固形分として分離し、さらに水洗、識別を繰り返した後真空乾燥して、粒度分布が約～2.0 μmのトナー粒子を得た。

このトナー粒子を顕微鏡で観察したが、いずれの粒子にもカーボンブラックなどの偏りは見られず、分散状態が良好であることがわかった。

また、このトナーパートと鉄粉キャリア（商品名TEFV-230/400、日本鉄粉製）95部とを混合して現像剤としたが、ブローオフ法によるこの現像剤の帯電量は20 μC/gであった。

さらに上記の現像剤を用いて、有機光導電体を原光体とする市販の複写機で実写テストを行なったところ、鮮明な画像が得られた。

実施例2

実施例1において、三菱カーボンブラックMA600を代えて三菱カーボンブラック#60

実施例1

ステレン	4.8部
ローブナルアクリレート	1.2部
ポントロンN11	1.5部
三菱カーボンブラックMA600	3部
(比表面積 153 m ² /g)	
吸油量 124 ml/100 g	

上記の重合性組成物をマルチディスパーザー（三田村研製）により、約1,000 rpmの回転数で30分間分散させた後、2,2'-アゾビスイソブチロニトリル3部を溶解させ、油相混合肥とした。

一方、水相としてポリビニルアルコール（商品名GM-14、日本合成化成製）の1/4水溶液180部を用いた。

上記油相の水相への分散は、TKホモミキサー（特殊機械工業製）を用い、回転数約6,000 rpmで1/2分間行なった。その後、分散液を攪拌機、温度計及び温湯導入管を備えたサンレ

(比表面積 135 m²/g、吸油量 110 ml/100 g)を用いる他は実施例1と同様にしてトナーを作製した。

その結果、おおむね実施例1と同様の良好な結果を得た。

実施例3

実施例1においてポントロンN11に代えてポントロンNO3を用いる他は実施例1と同様にしてトナーを作製した。

その結果、おおむね実施例1と同様の良好な結果を得た。

比較例1 および

実施例1において、三菱カーボンブラックMA600の代わりにそれぞれ
三菱カーボンブラック#30 (比較例1)

比表面積 85 m²/g
吸油量 113 ml/100 g
(三菱化成工業製)

および

三菱カーボンブラックMA8 (比較例2)

比表面積 13.7 m²/g
墨油量 5.8 ml/100g

(三菱化成工業㈱製)

を用いる他は同様にしてトナーを作製し、比較例1、2とした。

しかし、いずれのトナーも顕微鏡観察でトナー粒子内のカーボンブラックの偏在がはなはだしく、分散状態は良くなかった。

また、実施例1と同様にして現像剤を作製したが、いずれも帶電量は10 μC/g以下と低く、実写テストでもカブリが多く、得られた画像は不鮮明であった。

比較例3

実施例1において、ポントロンN11の代りに、脂肪酸で変性されていないニグロシン染料（商品名 ニグロシンベースEX、オリエンタル化学工業㈱製）を用いる他は全く同様にしてトナーを作製した。

その結果、顕微鏡観察により、カーボンブラックの分散不良が見られた。

(発明の効果)

以上の説明から明らかのように、本発明の正帯電性トナーの製造方法は、脂肪酸変性のニグロシン染料と、特定の物性値を有するカーボンブラックとを併用することによって、ビニル單量体中への均一分散を容易にしあつ水相への歴済後あるいは重合中ににおいても粒子内のこれらの偏在がなく安定な分散状態が保持されるという効果を有する。

従って、本発明によれば、良好なトナー諸特性を有し、形状性に優れた微粒子状重合体を比較的簡単な工程で製造することができるので、本発明は工業的に極めて有用である。

出願人 三菱化成工業株式会社

代理人 弁理士 長谷川 一

ほか1名

This Page Blank (uspto)